

成果指標 1. 渋滞による損失時間

都市圏を中心とした自動車交通の円滑化が求められています。このため、渋滞緩和に向けた成果を定量的に示す成果指標として、渋滞のない場合の所要時間と実際にかかる所要時間の一年間の差を渋滞損失時間として採用しています。

$$\text{渋滞損失時間} = \sum \left\{ \frac{\text{区間の距離}}{\text{当該区間の通常時の旅行速度}} - \frac{\text{区間の距離}}{\text{当該区間の基準旅行速度}} \right\} \times \text{車種別交通量} \times \text{車種別平均乗車人員}$$

- * 対象道路：高速道路、国道、県道
- * 通常時の旅行速度：H11 道路交通センサスの混雑時旅行速度をもとに時間帯別に推計した当該区間の旅行速度。
- * 基準旅行速度：混雑していない場合の旅行速度
- * 車種別交通量：H11 道路交通センサスでの時間帯別交通量。車種区分は乗用車・バス・小型貨物車・普通貨物車
- * 車種別平均乗車人員：H11 道路交通センサスの車種別平均乗車人員
- * 平成 15 年度実績値：モニタリング区間実測値により算出

成果に向けた取組み

■ 主要な渋滞ポイントの緩和・改善

バイパスや環状道路を整備し、市街地に流入する通過交通の排除とあわせ、交差点の立体化や交差点改良、拡幅整備、橋梁架替等のボトルネックの解消により、主要な渋滞ポイントの緩和・改善を図ります。

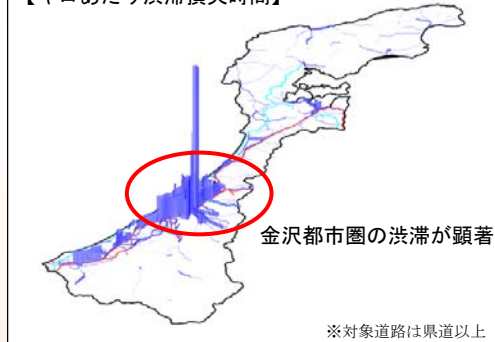
■ 公共交通機関の利便性の向上

パークアンドライド、バスく〜る®の拡充など、公共交通機関の利便性を向上し、自家用自動車交通からの転換を促進します。

■ 適切な情報提供による時間短縮や定時性の確保

渋滞・事故・通行規制といった道路情報を、道路交通情報通信システム（VICS）等によりリアルタイムに発信するなど、今後とも成長する IT（情報技術）を積極的に活用した適切な情報提供により、移動時間の短縮や定時性の確保を図ります。

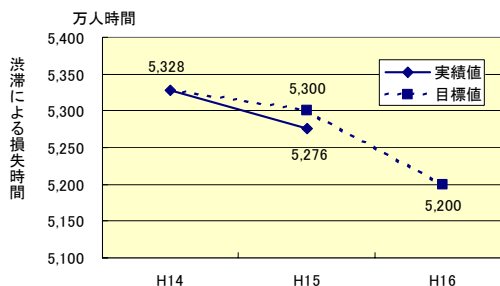
【キロあたり渋滞損失時間】



成果指標の動向

- 渋滞損失時間は、平成 14 年度の年間 5,328 万人時間から、平成 15 年度の 5,276 万人時間へと 52 万人時間が減少し、目標を達成しました。
- 平成 16 年度は、幹線道路ネットワークの整備や渋滞箇所の拡幅、交差点立体化により、平成 14 年度実績から 128 万人時間の減少を目標とします。

平成 14 年度の実績		5,328 万人時間
平成 15 年度	計画	5,300 万人時間
	実績	5,276 万人時間
平成 16 年度の目標		5,200 万人時間



達成度報告（平成 15 年度の成果）

■平成 15 年度に供用した主な箇所

路線名	区間	延長	整備内容
①国道 8 号金沢地区交通対策 6 車線化(海側)	金沢市南新保～諸江	1.4km	拡幅(2→3 車線)
②国道 159 号津幡バイパス	かほく市 ^{うちひすみ} 内日角～津幡町舟橋	4.2km	新設(バイパス)
③(主)七塚宇ノ気線	かほく市 ^{うちひすみ} 白尾～内日角	0.9km	新設(バイパス)
④金沢外環状道路(海側幹線)	金沢市下安原～専光寺	2.0km	拡幅(2→4 車線)
⑤(都)小坂御所線	金沢市御所	0.5km	新設
⑥(都)金沢駅通り線	金沢市本町	0.2km	拡幅

※ (主) は主要地方道、(一) は一般県道、(都) は都市計画道路の略。

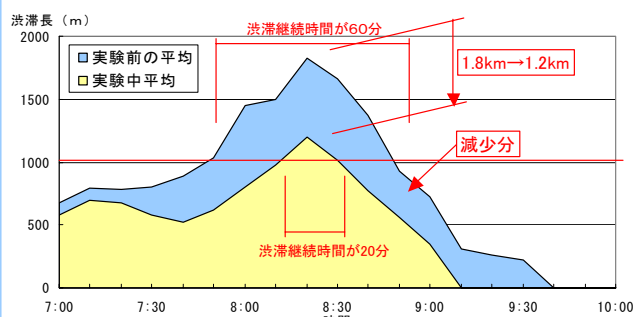


高速道路を活用した渋滞緩和策

●高速料金割引実験（美川 I.C～金沢東 I.C）

高速道路を活用した渋滞緩和策として、高速料金割引実験を行いました。実験期間中、国道 8 号諸江交差点では、最大渋滞長が約 1.8km から約 1.2km に減少し、1km 以上の渋滞継続時間が 1/3 に減少しました。

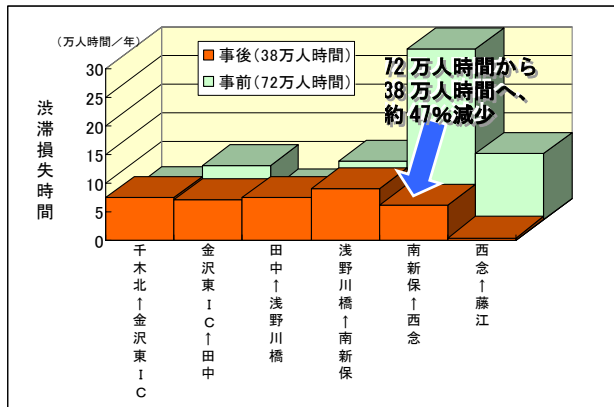
国道 8 号諸江交差点における渋滞長の推移（朝ラッシュ時）



■ 国道 8 号 6 車線化（海側、諸江～南新保間）により渋滞が緩和

平成 16 年 3 月より供用開始した国道 8 号諸江・南新保間上り線（福井→富山方面）の 3 車線化により諸江交差点を先頭とした渋滞が解消しました。平成 16 年度には下り線（富山→福井方面）の 3 車線化も完了する予定です。

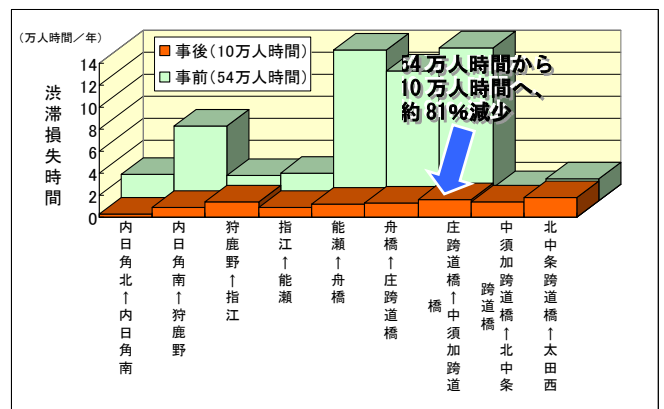
- 効果 1）渋滞長 約 94%減 （約 2,500m が約 140m へ）
- 効果 2）通過時間 約 12 分短縮 （約 14 分が約 2 分へ）
- 効果 3）渋滞損失時間 約 47%減 （72 万人時間が 38 万人時間へ）



■ 国道 159 号津幡バイパス等の整備により、能登有料道路と北陸自動車道間が 18 分短縮

平成 16 年 3 月に供用開始した国道 159 号津幡バイパス等により、能登有料道路と北陸自動車道間が約 33 分から約 15 分に短縮しました。

- 効果 1）通過時間 約 18 分短縮、
約 33 分が約 15 分へ
- 効果 2）渋滞損失時間 約 81%減
(54 万人時間が 10 万人時間へ)



業績計画（平成 16 年度の取組み）

■ 平成 16 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	区間	延長	整備内容
①国道 8 号金沢地区交通対策 6 車線化（山側）	金沢市諸江～南新保	1.4km	拡幅（2→3 車線）
②国道 8 号金沢地区交通対策 西念交差点（山側）	金沢市南新保～二宮	1.0km	交差点立体化
③金沢外環状道路（海側幹線）	金沢市福増～戸水	4.2km	拡幅（2→4 車線）

■ 見込まれる渋滞緩和効果

区間	現在の 所要時間※	H 16 末所要時間 （見込み）	短縮時間
国道 8 号田中～藤江	15 分	6 分	9 分

※ピーク時の所要時間。

①国道 8 号 6 車線化



<金沢市周辺拡大図>



②国道 8 号西念交差点

